

源氏物語行幸卷古写本の仮名遣い

——定家本と大島本・河内本・陽明文庫本——

みなみ
南 芳 公
よし ひろ

(本 学 教 授)

はじめに

従来、源氏物語の藤原定家本として伝わり、現存するのは柏木・花散里・行幸・早蕨の四帖である、とされてきた。ところが、定家筆の写本の五冊目として、新たに「若紫」の巻が発見されたとの知らせが、テレビ・新聞各紙などで大きく取り上げられた。令和元年十月八日、冷泉家時雨亭文庫の発表を受けての報道であった。定家本との確認に間違いがなければ、源氏物語研究史上、画期的な出来事といえ、今後の研究の進展が大いに期待されよう。

小論では、すでに柏木・花散里・早蕨の三帖についての仮名遣いの調査を一応終えた。今回は、残る行幸巻を対象として、前稿に引き続き仮名遣いについて調査することにした。本稿では、オとヲの仮名遣い、およびオとヲ以外の仮名遣いについて、あわせてその異同を取り上げる。

①定家本

②大島本（池田龜鑑『源氏物語大成』校異篇の底本）

③河内本系統である、尾州家河内本源氏物語

④別本のうち、陽明文庫源氏物語

以上、四つの本文の異同を調査するが、四本すべてが歴史的仮名遣いに一致する語は除いた。すなわち、四つの本文のうち、少なくともいずれか一つには歴史的仮名遣いに一致しない用例のみられる語例について、その異同を調べる。

一

先ずオとヲの仮名遣いについてみると、行幸巻において、異同のある箇所は、〈オ↓ヲ〉では、用例数、延べ76語。〈ヲ↓オ〉では、用例数、延べ31語となる。これらを異なり語で、次のようにまとめた（複合動詞・派生語の立項のしかたで、異なり語数は多少数値が違ってこよう）。

・〈オ↓ヲ〉——46の語例（項目） ・〈ヲ↓オ〉——14の語例（項目）

以下、語例をそのまま〈 〉内に歴史的仮名遣いで見出し（項目）とした（適宜漢字表記を掲げる）。その見出しのもとに、当該箇所の用例をすべて掲げ、その所在を示すことにする。各用例は、先ず、定家本の本文により表記と所在を示した。その本文は、現行の仮名の字体に改めた。ただ、前稿までの扱いは異なるが、字母「越」はそのままにした。次いで、大島本を底本とする『源氏物語大成』校異篇（あわせてカッコ内には新大系本）、そのあとに尾州家河内本源氏物語、陽明文庫源氏物語の所在を示す（それぞれ、定・大成・新・河・陽の略号で掲げ、定家本については丁数とオモテ・ウラの別を記す。諸本の洋数字（二桁以上は横書き）は頁数、丸数字は行数を表し、適宜原文も示す。なお、定家本と同じ本文を「同」として先に掲げ、異なるものは「／」で区切りを付けてそのあとに掲げる。また、「越」のある用例には「〳」も区切りに使用した）。

さらに、各用例（定家本での表記）ごとに記号を加えたが、◇印は定家本で歴史的仮名遣いに一致する語例である。また、四本の仮名遣いがみな同じ場合には◎印を付した。なおまた、四本共通の場合とは別にして、定家本と『源氏物語大成』校異篇・新大系本（いずれも大島本）との仮名遣いの異同にとくに注目し、この二本間で同じ場合は○印を付し、異なる場合は「異」としたうえで△印を付した。

〈オ↓ヲ〉

〈おきてく〉〔掟〕○をきて（定）38オ② ★大成901⑦（新75①）同、陽11⑬同／河12①（お）

〈おきつたまも〉〔沖つ玉藻〕◇おきつたまも（定）32オ③ 河14⑪同／陽14⑦（を）、興津玉も★大成906②（新79⑭）

〈おきゑる〉〔起き居〕*連用形 *重出（↓おきゑ） ◇◎おきゑるたまへり（定）10ウ① ★大成88⑬（新37⑦）同、河6⑥同、陽6⑧同

〈おく〉〔置く〕（て越）ゝきたるやうに（定）85ウ⑨／★大成910⑤（手を）、新84④（、〳を）、河16⑬（を）、陽16⑪（を）◎

おほしをきてければ(定) 24ウ① ★大成880⑤(新23⑭)同、陽1⑤同、河1⑧(*異文「おもひをき給へれば」)

〈おくりもの〉「贈り物」御越くり物(定) 23ウ①／★大成897⑤(新81③)(を)、河15④(を)、陽15①(を)

〈たちおくる〉「立ち後る・立ち遅る」たち越くれ(定) 11ウ⑤／★大成881⑩(新95⑤)(を)、河6⑭(を)／陽6⑮(お)

〈みおこす〉「見おこす」△みをこせ給(定) 29ウ① 陽5⑰同／★大成899①(新98⑬)異(お)、河16④(お)

〈おこたる〉○をこたりたまはねは(定) 9ウ① ★大成885⑤(新23⑫)同／河5⑱(お)、陽6③(お)

〈おしはかりごと〉◎御をしはかりごと(定) 1才④ ★大成885②(新28②)同、河3②同、陽3②同

〈おしはかる〉△をしはからせたまふ(定) 6ウ⑤ 河5①同、陽5①同／★大成888⑩(新2⑭)異(お)

〈おす〉「押す」◎をされたるや(定) 4才⑧ ★大成882②(新28④)同、河4④同、陽4③同

〈おしする〉「押し摺る」◎(とて)を、しすりて(定) 27ウ② ★大成910⑭(手をく・新24⑫)同(、を)、河17④同(を)、陽16⑰同(、を)

陽16⑰同(、を)

〈おしひしぐ〉「押し拉ぐ」△をしひしかれ(定) 2ウ⑧ 河3⑬(*異文「をしみしかれ」)／★大成883③

(新29⑤)異(お)

〈おちゆく〉「落ちゆく」◇おちゆく(定) 17才③ ★大成883③(新28⑪)同、河7⑩同／陽7①(*異文「けちゆく」)

〈おちぐり〉「落栗」◇おちぐり(定) 28才④ ★大成883⑩(新77⑤)同、河13④同／陽12⑱(*異文「をそくり」)＝「運栗か」

〈みおとす〉「見眩す」◇△見おとし(定) 洪4ウ⑥ 河4⑦同、陽4⑤同／★大成887⑥(新60⑧)異(を)

〈おとど〉△を、(定) 17才⑥／★大成889③(新28⑨)異(お)、河8⑫(お)、陽8⑫(お)

〈おとなしなき〉「音無の滝」◎をとなしなき(定) 1才② ★大成885②(新28②)同、河3①同、陽3①同

〈おとる〉「劣る」△をとらず(定) 10才④／★大成888⑪(おとらず・新64④)異(お)、河6④(お)、陽6⑥(お) ◇おとらむ(定)

25ウ⑧ ★大成901⑤(新74⑭)同、河11⑱同／陽1⑭(を)

〈おとりばら〉「劣り腹」◇△おとりはら(定) 34ウ④ 河15⑭同、陽15⑩同／★大成888④(新28②)異(を)

〈おどろおどろし〉◇◎おどろし(定) 10ウ⑤ ★大成881①(新64⑨)同、河6⑦同、陽6⑨同

〈おどろく〉◇◎おとろきたまふて(定) 17ウ⑨ ★大成885⑨(新88②)同、河8⑬同、陽8⑬同

〈おなじ〉◇◎おなし(定) 4才⑦ ★大成887②(新88③)同、河4④同/陽4②(を) ◇◎おなくは(定) 9才④ ★大成888③(新

88⑩)同、河5⑬同/陽6①(を) ◇◎おなしすち(定) 30才② ★大成904⑤(新78①)同、河13⑪同/陽13⑥(を)

〈おのおの〉◎をのく(定) 20ウ⑤ ★大成897⑨(新71②)同、河9⑬同、陽9⑬同 ◎をのく(定) 23ウ⑦ ★大成888⑬(新

73⑥)同、河11③同、陽11①同 ◎をのく(定) 25才② ★大成900⑪(新74⑤)同、河11⑫同、陽11⑨同 ◎をのく(定)

32ウ⑩ ★大成906⑫(新80⑩)同、河14⑯同、陽14⑯同

〈おのづから〉◎をのづから(定) 8才④ ★大成889⑧(新83①)同、陽5⑬同/河5⑩(お) ○をのづから(定) 17才⑥ ★大成885③(新

88⑨)同、陽8⑫同/河8⑫(お) ◎をのづから(定) 20才⑦ ★大成887⑥(新2⑬)同、河9⑬同、陽9⑬同 ◎をのづから(定)

22ウ⑨ ★大成889③(新72⑪)同、河10⑮同、陽10⑬同 ◎をのづから(定) 26ウ⑤ ★大成910③(新84①)同、河16⑮同、

陽16⑮同

〈おのれ〉◎をれ(定) 洪36才⑥(*異文) をれ★大成909⑩(新88⑧)(*異文) /をのれ河16⑩、をのれ陽16⑥

*新大系・脚注三一(『近江の君の言。……「をれ」、諸本「をのれ」』により、「をれ」を異文としておく。)

〈おのれ〉◎をのれ(定) 38ウ② ★大成910①(新83⑭)同、河16⑭同、陽16⑨同

〈おはす〉◇◎おはし(定) 4才③ ★大成886⑭(新88①)同、河4③同、陽4①同 ◇◎おはす(定) 4才⑧ ★大成887②(新88⑤)

同、河4⑤同、陽4③同 ◇◎おはす(定) 7才② ★大成888⑬(新83④)同、河5③同/陽5⑤(を) ◇◎こもりおはする(定)

8ウ② ★大成889⑪(新83⑤)同、河5⑫同、陽5⑮同 ◇◎おはする(定) 10才① ★大成890⑨(新84①)同、河6②同、陽

6⑤同 ◇◎まちはおはする(定) 19才⑤ ★大成886⑧(新70②)同、河9⑧同、陽9⑦同 ◇◎いりおはして(定) 23ウ③ ★大

成906⑧(新80⑥)同、陽14⑬同/河14⑮(*異文「いり給ふて」) ◇◎おはする(定) 35才⑩ ★大成908⑬(新82⑪)同、河16

②同/陽15⑯(を)

〈おはします〉◇◎おはします(定) 3ウ⑦ ★大成889⑫(新85⑭)同、河4①同/陽3⑱(を) ◇◎おはし(十まし補入)(定) 5

才⑤ おはしまし★大成887⑨(新88⑬)、おはしまし河4⑨、おはしまし陽4⑧ ◇◎おはしまさ、りけるを(定) 10ウ③ ★大成

- 890⑭ (新84⑨) 同、河6⑥同、陽6⑨同 ◇◎わたりおはしまいたる (定) 17ウ④ ★大成885⑦ (新88⑭) 同、河8⑮同、陽8⑭同 ◇◎おはしまさぬ (定) 24オ② ★大成900① (新78⑧) 同、河11⑤同/陽11② (を) ◇◎おはしませは (定) 26オ⑥ ★大成901⑨ (新75④) 同、河12③同/陽11⑦ (を) ◇◎おはしまして (定) 27ウ④ ★大成902⑩ (新76⑤) 同、河12⑬同/陽12⑨ (を) ◇◎おはします (定) 35オ⑤ ★大成908⑩ (新82⑧) 同、河15⑱同/陽15⑭ (を) ◇◎おはしませは (定) 36オ② ★大成909⑧ (新83⑥) 同、河16⑲同/陽16④ (を) ◇◎おはしませは (定) 37オ⑧ ★大成910⑪ (新84⑨) 同、河17⑲同/陽16⑮ (を)
- ／陽16⑮ (を)
- 〈おほく〉「多く」◇◎おほく (定) 23ウ① ★大成888② (新71⑩) 同、河10⑤同/陽10③ (を)
- 〈おほしたつ〉「な越」、ほしたて (定) 7ウ⑦ ★大成888⑤ (おほし立て・新82⑫) (お)、河5⑧ (お)、陽5⑫ (お)
- 〈おほしさだむ〉「思し定む」◇◎おほしさためて (定) 9オ⑤ ★大成888③ (新83⑪) 同、河5⑰同/陽6① (を)
- 〈おまし〉「御座」◇◎おまし (定) 17ウ⑦ ★大成885⑧ (新89①) 同、河8⑱同、陽8⑮同 ◇◎おまし (定) 23オ⑧ ★大成905⑦ (新79⑤) 同、河14⑵同/陽14① (を)
- 〈おまへ〉「御前」◇◎おまへ (定) 33オ⑤ ★大成888⑩ (新82⑧) 同、河15⑱同/陽15⑭ (を)
- 〈おもふ〉「思ふ」思たまへし (定) 21ウ⑧ ★大成888⑥ (新71⑮) 同/河10⑧ (お)、陽10⑥ (を)
- 〈おもりかなり〉「重りかなり」◇△おもりかに (定) 4ウ① 陽4③同/★大成887③ (新88⑵) 異 (を)、河4⑵ (を)
- 〈おやこ〉「親子」◇◎おやこ (定) 9オ③ ★大成890② (新83⑩) 同、河5⑱同/陽6① (を)
- 〈おやがる〉「親がる」◇◎おやからむ (定) 25オ⑨ ★大成901① (新74⑩) 同、河11⑭ (*異文「おやめかん」) /陽11⑪ (を)
- 〈おや〉「親」◇◎おや (定) 26オ⑨ ★大成901⑫ (新75⑥) 同、河12④同/陽12① (を)
- 〈おやげなし〉「親げなし」◇◎おやげなく (定) 37オ⑨ ★大成910⑫ (新84⑩) 同、河17⑳同/陽16⑮ (を)
- 〈おいゆく〉「老いゆく」◇◎おいゆく (定) 27ウ⑧ ★大成902⑫ (新76⑦) 同、河12④同/陽12⑪ (を)
- 〈おもひおよぶ〉「思ひ及ぶ」◎おもひをよひ (定) 15ウ⑤ ★大成894④ (新87⑪) 同、河8⑳同、陽8⑳同
- 〈およぶ〉「及ぶ」◎をよひ侍て (定) 22ウ⑦ ★大成899② (新72⑨) 同、河10⑮同、陽10⑫同

〈おりたつ〉「下り立つ」◇△おりたち(定) 33ウ⑦ 河15⑦同／★大成307⑧(新31⑥)異(を)、陽15④(を) ◇○おりたち(定) 33オ④ ★大成308⑩(新32⑧)同、河15⑩同／陽15⑭(を)

〈おれおれし〉「愚れ愚れし・痴れ痴れし」◇○おれくしき(定) 二オ⑤ ★大成391⑤(新32⑭)同、河6⑪同／陽6⑫(を)

〈おろかなり〉◎をろかなりし(定) 33オ⑩ ★大成307④(新31①)同、河15④同、陽15①同 ◇△おろかには(定) 33ウ⑥／★大成309④(新32②)異(を)、河16⑥(を)、陽16①(を↑)

〈ヲ↓オ〉

〈あをいろ〉「青色」△あおいろ(定) 2オ⑥／★大成308⑫(新33⑬)異(を)、河3⑨(を)、陽3⑧(を)

〈あをにび〉「青鈍」◇○あをにひ(定) 33オ③ ★大成303⑩(新7⑤)同、陽12⑩同／河13③(お)

〈くちをし〉○くちおしう(定) 4オ⑦ ★大成307②(新30④)同、河4④同／陽4③(を) くち越しき(定) 13ウ⑧／★大成303①(新30⑩)(お)、河7⑨(お)／陽7⑩(を) くち越しけれと(定) 33ウ⑤／★大成301④(新74⑬)(お)、河11⑦(お)／陽11⑭(を)

〈をかし〉○おかし(定) 2オ④ ★大成305⑪(新32⑫)同、河3⑧同／陽3⑧(を) ◎おかしき(定) 2ウ⑥ ★大成308②(新39④)同、河3⑫同、陽3⑪同 ○おかし(定) 3ウ④ ★大成308⑩(新39⑫)同、河3⑮同／陽3⑰(を) ○おかしう(定) 5オ④

★大成307⑨(新30⑪)同、河4⑨同／陽4⑦(を) ◎おかしき(定) 6ウ④ ★大成308⑨(新31⑬)同、河4⑱同、陽5①同 ○おかしう(定) 28ウ④ ★大成303⑤(新76⑮)同、河13①同／陽12⑮(を) ○おかしき(定) 31オ⑪ ★大成305⑧(新79⑥)同、河14⑤同／陽14②(を)

〈をかしさ〉○おかしさ(定) 38オ⑧ ★大成304⑨(新78④)同、河13⑬(*異文「おかしき」)／陽13⑩(を) 〈をこがまし〉○おこがましう(定) 1ウ② ★大成305⑤(新38⑥)同、陽3④同／河3④(を) ○おこがましけれと(定) 12オ⑤

★大成391⑭(新39⑨)同、陽6⑱同／河6⑰(を) ○おこがましき(定) 13オ④ ★大成392⑨(新36②)同、陽7⑥同／河7⑤(を) 〈をさをさ〉◎おさく(定) 14ウ③ ★大成393⑦(新37①)同、河7⑬同、陽7⑭同 ○おさく(定) 24オ② ★大成300①(新73⑧)同、河11⑤同／陽11②(を)

〈をしほのやま〉「小塩の山」越しほの山(定) 5ウ⑧ ≡ ★大成88②(新②④)(を)、河4⑭(を) / 陽4⑫(お)
 〈をしほやま〉「小塩山」越しほやま(定) 6オ⑤ ≡ 小塩山★大成88⑤(新②⑦) / 河4⑯(を)、陽4⑰(お)
 〈をしむ〉「惜しむ」◎おしみとむ(定) ニウ④ ★大成88⑨(新③④) 同、河6⑬(*異文「おしむ」)、陽6⑮(*異文「おしみとむ」)
 〈をり〉「折」◎おり(定) 5ウ⑥ ★大成88⑭(新②②) 同、河4⑬同、陽4⑪同 ○おり(定) 9ウ⑤ ★大成88⑦(新③④) 同、
 河6①同 / 陽6④(を) ○おり(定) 一オ⑦ ★大成88⑤(新③⑬) 同、河7⑫同 / 陽7⑫(を) ○おり(定) ㊁ウ③ ★大成
 89⑩(新③③) 同 / 陽10⑰(を) / 河二②(*異文≡当該箇所ナシ) ○おり(定) ㊂ウ⑨ ★大成90⑧(新①②) 同、河13③
 同 / 陽12⑰(を) ○おり(定) ㊃ウ⑦ ★大成91②(新②⑮) 同、河17⑥同 / 陽17①(を) 越り(定) ㊄ウ② / おり★大
 成90⑬(新①⑨)、河13⑥(*異文「おりふし」、おり陽13③)
 〈をりしも〉「折しも」◎おりしも(定) 一ウ④ ★大成84⑪(新③③) 同、河8⑧(*異文「おりも」)、陽8⑧(*異文「おりも」)
 〈をりをり〉「折折」◎おりり(定) ㊅ウ① ★大成88⑫(新①⑤) 同、河10⑫同、陽10⑨同
 〈をる〉「折る」○おれたまふ(定) 一ウ⑦ ★大成88⑧(新③⑨) 同、河3⑥同 / 陽3⑥(を)

二

次いでオとヲ以外の仮名遣いについて、その異同を取り上げる。行幸巻において、異同のある箇所は、用例数にして、延べ118語である。これらを異なり語で、76語例(項目)にまとめた(複合語派生語の立項のしかたで、異なり語数は多少数値が違ってこよう)。そのうえで、柏木巻での調査にならって、次のように分類して排列する。

- I 「い・ゐ・ひ」 〈イ↓ヒ〉〈ヒ↓イ〉〈ヒ↓キ〉〈キ↓ヒ〉〈キ↓イ〉 ※行幸・早蕨巻は、〈キ↓ヒ〉語例ナシ。
 〈イ↓キ〉 ※行幸巻のみ、語例アリ。
- II 「え・ゑ・へ」 〈エ↓へ〉〈へ↓エ〉〈へ↓エ〉〈エ↓へ〉 ※早蕨巻は、〈エ↓エ〉語例ナシ。
 〈エ↓エ〉 ※行幸巻のみ、語例アリ。

Ⅲ「う・ふ」

〈ウ↓フ〉 〈フ↓ウ〉 ※早蕨巻は、〈ウ↓フ〉語例ナシ。

Ⅳ「は・わ」

〈ハ↓ワ〉 〈ワ↓ハ〉 ※早蕨巻は、〈ハ↓ワ〉語例ナシ。

V「ほ・お・を」

〈ホ↓オ〉 〈ホ↓ワ〉 〈ヲ↓ホ〉 ※早蕨巻は、〈ヲ↓ホ〉語例ナシ。

I「い・ゐ・ひ」

〈イ↓ヒ〉

〈あいな〉 (*「あいなし」語幹) ◇○あいなのことや (定) 6ウ④ ★大成889⑨ (新92⑬) 同、陽5①同/河5①(ひ)

〈おいらかなり〉 ○おひ「目」らか也 (定) 8ウ④ ★大成891① (新7⑪) 同/河13⑦ (*異文「いとおいらかにかき給へり」)、陽13③ (*

異文「いとをひか也」)

〈さいはひ〉「幸ひ」◇○さいはひ (定) 8ウ⑤ ★大成897⑨ (新7②) 同、河9⑬同/陽9⑰(ひ)

〈さわがひ〉「騒がひ」*連用形イ音便 *重出(↓さわがす)◇○さわがいたまふ (定) 12オ② ★大成891⑬ (新9⑦) 同、陽6⑰同/

河6⑯(ひ)

〈くい〉「悔い」*連用形 *重出(↓たまひ)◇○人わるうくいおもふたまへて (定) 13ウ⑤ ★大成892⑭ (新6⑧) 同/河7⑧(ひ)、

陽7⑨ (*異文「わひく、ひ思給えて(文意不明)」)

〈ヒ↓イ〉

〈けはひ〉*重出(↓けけひ)△みけはい (定) 8ウ① /★大成910① (新83⑬) 異(ひ)、河16⑬(ひ)、陽16⑧(ひ)

〈たかがひ〉「鷹飼ひ」◇△たか、ひ (定) 2ウ④ 河3⑪同、陽3⑩同/★大成886① (新59②) 異(ひ)

〈としよはひ〉「年齢」◇○としよはひ (定) 22オ③ ★大成898⑨ (新72②) 同/陽10⑦(ひ)、河10⑩ (*異文「としよき」)

〈よはひ〉「齢」◇○よはひ (定) 22ウ⑨ ★大成899③ (新72⑩) 同、河10⑮同、陽10⑫同

〈のたまひ〉*連用形 ◇△のたまひ (定) 18ウ④ /★大成896③ (新69⑪) 異(い)、河9④ (*異文「の給ふ」)、陽9③ (*漢字表記「の給」)

〈ひろひ〉「拾ひ」*連用形 ◇△ひろひあつめらる(定) 17オ② 河8⑩同/★大成894⑭(新68⑦)異(5) 陽8⑩(5)
〈ふるひ〉「震ひ」*ハ四・連用形 ◇○ふるひにけり(定) 28オ① ★大成902⑬(新76⑧)同/河12⑭同/陽12⑪(5)
〈ふるまひ〉*連用形 ○ふるまふ(定) 10オ④ ★大成890⑩(新64④)同/河6④(ひ) 陽6⑥(ひ)
〈ゑひ〉「酔ひ」◇○ゑひになりて(定) 20ウ⑤ ★大成897⑨(新71②)同/陽9⑬同/河9⑬(5)
〈ゑひなき〉「酔ひ泣き」○ゑひなき(定) 24オ③ ★大成900①(新73⑨)同/河11⑤同/陽11③同

〈ヒ→中〉

〈うひうひし〉◎うひくしう(定) 11オ② ★大成891③(新64⑫)同/河6⑨同/陽6⑪同

〈つひに〉○つひには(定) 8ウ⑥ ★大成889⑭(新83⑦)同/河5⑭同/陽5⑰(5)

〈中→ヒ〉用例ナシ。

〈中→イ〉

〈おきゐ〉「起き居」*連用形 *重出(↓おきゐ)◇△おきゐたまへり(定) 10ウ① 河6⑥同/陽6⑧同/★大成880⑬(新54⑦)異(い)
〈まゐらす〉◎まいらせよ(定) 18オ③ ★大成895⑪(新69④)同/河8⑱同/陽8⑱同 ○まいらせたまふ(定) 31オ⑩ ★大成905⑧(新79⑤)同/陽14①同/河14⑤(*異文=当該箇所ナシ)

〈まゐる〉◎まいり(定) 5オ⑦ ★大成887⑩(新60⑬)同/河4⑩同/陽4⑧同 ○まいらす(定) 10ウ⑧ ★大成891③(まいらず・新64⑪)同/河6⑨同/陽6⑩同 ○まいりたまふ(定) 12オ⑧ ★大成882②(新81⑪)同/河6⑱同/陽7①同 ○まゐる(定) 18オ④ ★大成895⑪(新69④)同/河8⑱同/陽8⑱同 ○まいりて(定) 19オ⑥ ★大成896⑨(新70②)同/河9⑧同/陽9⑦同 ○まいりたまふ(定) 21オ⑤ ★大成897⑭(新71⑧)同/河10④同/陽10②同 ○まゐり(定) 23ウ⑧ ★大成899⑬(新73⑥)同/河11④同/陽11①同 ○まゐる(定) 24ウ⑦ ★大成900⑨(新74②)同/陽11⑦同/河11⑩(*異文「さぶらふ」)
◎まゐり(定) 31オ③ ★大成905④(新78⑮)同/河14②同/陽13⑯同 ○まゐる(定) 31ウ⑧ ★大成905⑬(新79⑪)同

河14⑨同、陽14⑤同 ◎まいり給へる(定) 36才⑩★大成309⑬(新83⑫)同、河16⑫同、陽16⑦同

イ↓中

〈うちのおほいと〉〔内大殿〕◇△うちのおほいと(定) 17ウ③ 河8⑭同／★大成85⑥(新88⑭)異(ゐ)、陽8⑭(*漢字表記「内大殿」)

〈ついで〉◇△ついでに(定) 36才⑩ 河16⑫同、陽16⑦同／★大成309⑬(新83⑫)異(ゐ)

II「え・ゑ・く」

エ↓エ

〈きこえ〉〔聞こえ〕*連用形 きこ江(定) 18才⑨ きこえ★大成88⑭(新88⑦)、きこえ河9②／陽9①(ハ) ◇○まちうけきこえ
たまふ(定) 17ウ⑥ ★大成88⑧(新88⑮)同、河8⑮同／陽8⑮(ハ) ◇○きこえ給へり(定) 18ウ① ★大成88①(新88⑨)
同、河9③同／陽9②(ハ) ◇○きこえ給へは(定) 22ウ① ★大成88⑫(新72⑥)同、河10⑫同／陽10⑩(ハ)

エ↓エ

〈え〉*副詞 ◇○えしのひたまはぬ(定) 31ウ③ ★大成305⑩(え)忍しのびたまはぬ・新79⑧)同、河14⑦同／陽14③(ネ) ◇○え
えきこえたまはねは(定) 33才⑦ ★大成306④(え)聞こえたまはねば・新88①)同、河14⑫同／陽14⑨(ネ)
〈えびぞめ〉〔葡萄染め〕◇△えひそめ(定) 2才⑦ 河3⑨同、／★大成88⑫(新88⑬)異(ネ)、陽3⑧(*異文「えみそめ」) ◇△え
ひそめ(定) 19ウ⑤／★大成88⑬(新70⑦)異(ネ)、河9⑪(ネ)、陽9⑩(ネ)
〈きこえ〉〔聞こえ〕*未然形 ◇○きこえまほしけなる(定) 18才⑩ ★大成88①(新88⑧)同、河9②同／陽9②(ネ)
〈きこえ〉〔聞こえ〕*連用形 ◇○きこえたまへは(定) 33才⑩ ★大成88⑥(新88③)同、河14⑬同／陽14⑪(ネ) ◇○きこえ
いてくるを(定) 34才⑩ ★大成908②(新81⑭)同、河15⑫同／陽15⑧(ネ)

〈ものなきえ〉「物の聞こえ」◇○物のきこえ(定) 35ウ④ ★大成901③(新74⑫)同、河11⑬同/陽11⑬(多)

〈たづねえ〉「尋ね得」*連用形 *重出(↓たまへ) ◇○たつねえたまへらむ(定) 25ウ① ★大成901①(新74⑩)同、河11⑬同/

陽11⑫(多)

〈へ→エ〉(へ→エ/エ)

〈あへ〉「敢へ」*補助動詞・未然形 ◇○つゝみもあへず(定) 32オ⑤ ★大成906③(新79⑮)同、河14⑪同/陽14⑧(え)

〈かへさふ〉「返さふ」◇△たつねかへさふ(定) 14オ⑧ 河7⑫同、陽7⑬同/★大成883⑥(尋ねかえさふ・新88⑭)異(え)

〈こころばへ〉「心ばへ」△御心はえ(定) 30ウ② 河13⑮同/★大成904⑪(新78⑦)異(へ) 陽13⑪(へ) △心はえ(定) 37オ⑦

河17②同/★大成910⑩(新84⑧)異(へ) 陽16⑭(へ)

〈そへ〉「添へ」*連用形 ◇○へにそへても(定) 22ウ⑧ ★大成899②(新72⑩)同、河10⑮同/陽10⑫(え) ◇○へにそへても(定)

23ウ③ ★大成899⑩(新73③)同、陽10⑰同/河11②(*異文#当該箇所ナシ) ◇○そへ(定) 28オ④ ★大成902⑭(新76⑨)同、

河12⑱同/陽12⑳(え)

〈たへ〉「耐(堪)へ」*未然形 ◇○こしたへぬ(定) 11オ③ ★大成891④(新82⑬)同、河6⑩同/陽6⑫(え) ◇○うれへにたへず(定)

23オ⑦ ★大成899⑦(愁へにたへず・新72⑭)同、河10⑱同/陽10⑮(え) △物わらひにたえぬは(定) 37ウ④/★大成911①

(物笑ひに耐たへぬは・新84⑭)異(へ) 河17⑤(へ) 陽16⑱(多)

〈たまへ〉「給へ」*已然形 *重出(↓たづねえ)◇○たつねえたまへらむ(定) 25ウ① ★大成901①(新74⑩)同、河11⑬同/陽11⑬(え)

〈へ→エ〉

〈いへ〉「家」◇○こへ(定) 15オ④ ★大成893⑬(新67⑥)同、河7⑰同/陽7⑱(多) ◇○こへ(定) 15オ⑤ ★大成883⑬(新67⑥)

同、河7⑱同/陽7⑱(多)

〈うへ〉「上」◇○うへ(定) 6オ⑨ ★大成888⑦(新61⑪)同、河4⑰同/陽4⑱(多) ◇○うへ(定) 7オ① ★大成888⑫(新62③)

同、河5③同／陽5⑤(ゑ) ◇〇うへ(定) 7才⑥ ★大成88①(新82⑦)同、河5⑤同／陽5⑦(ゑ) ◇〇うへ(定) ニウ⑦
 ★大成88⑩(新88⑤)同、河6⑭同／陽6⑯(ゑ) ◇〇うへ(定) 15才① ★大成88⑪(新83④)同、河7⑯同、陽7⑯同
 うへ(の)きぬ「上の衣／袍」◇〇うへ(の)きぬ(定) 2才⑥ ★大成88⑫(袍うへ(の)きぬ・新88⑬)同、河3⑨同／陽3⑧(ゑ)
 みなみのうへ「南の上」◇〇みなみのうへ(定) 1才④ ★大成88②(新88②)同、河3②同／陽3②(ゑ)
 しりへさま「後方様」〇しりへさまに(定) 8ウ① ★大成88⑭(新88⑬)同／河16③(へ)、陽15⑰(*異文「しりさまに」)
 へたまへ「給へ」*連用形 *重出(↓く) ◇〇人わるうくいおもふたまへて(定) 15ウ⑤ ★大成88⑭(新88⑧)同／人わるくく
 ひおもひ給て河7⑧、陽7⑨(*異文「わひく、ひ思給て」)

エ↓へ

すゑ「末」◇〇すゑに(定) 14才① ★大成88②(新88⑩)同、河7⑨同／陽7⑩(*異文「すまに」) ◇〇すゑに(定) 14才② ★
 大成88③(新88⑪)同、河7⑩同／陽7⑪(へ) ◇〇すゑ(定) 21ウ⑧ ★大成88⑥(新7⑮)同、河10⑧同／陽10⑥(へ)
 ゆゑ「故」◎ゆへ(定) 34ウ⑦ ★大成88⑥(新82④)同、河15⑮同、陽15⑮同

エ↓エ

ゑむ「笑む」◇△ゑみ給ぬへきを(定) 36ウ⑩ 河16⑰同、陽16⑱同／★大成910⑥(新82⑤)異(ゑ)
 つまごゑ 〇つまごえ(定) 37ウ① ★大成910⑬(新82⑫)同、河17④同／陽16⑯(ゑ) ★新大系・脚注一九「つまごえ」||未詳。

Ⅲ「う・ふ」

ウ↓フ

つかうまつる「仕うまつる」◇△つかうまつらぬ(定) 38才④ 河15⑱同、陽15⑲同／★大成88⑨(新82⑧)異(ふ)

フ→ウ

〈そふ〉「添ふ」◇〇〇にそふ(定)ニオ⑤ ★大成891⑥(新82⑭)同、河6⑪同/陽6⑫(う) ◇〇そふ(定)ニオ① ★大成897⑪(新

71⑤)同、河10②同/陽9⑮(う)

〈つかふる〉「仕ふる」*連体形 ◇〇つかふる人(定)ニオ① ★大成891③(新84⑫)同、河6⑨同/陽6⑪(う)

IV「は・わ」

ハ→ワ

〈うるはし〉△うるわしうて(定)88オ⑧*ハ行転呼 /★大成883⑫(新11⑥)異(は)、河13⑤(は)、陽13②(は)

〈ものうるはし〉◇〇ものうるは「者」しう(定)88ウ⑧ ★大成883⑦(新7②)同、河13②同、陽12⑰同

〈けはひ〉*重出(↓けはひ)◇△みけはひ(定)88ウ① 河16⑬同、陽16⑧同/★大成910①(新88⑬)異(わ)

ワ→ハ

〈あわゆき〉「沫雪」◎あはゆき(定)88ウ⑦ ★大成889④(新83②)同、河16⑥同、陽16②同

〈ことわり〉◎ことわり(定)88オ⑪ ★大成886⑥(新88③)同、河14⑭同、陽14⑪同

〈さわぐ〉「騒ぐ」◎見さはく(定)1ウ④ ★大成885⑦(新88⑦)同、河8⑤同、陽3⑤同

〈さわがす〉「騒がす」*重出(↓さわがい) ◎さほかいたまふ(定)12オ② ★大成891⑬(新89⑦)同、河6⑯同、陽6⑰同

〈さわがし〉「騒がし」◎さはかしく(定)24ウ⑥ ★大成900⑧(新74①)同、河11⑩同、陽11⑦同 ◎さほかしう(定)38オ⑪ ★

大成904⑪(新78⑥)同、河13⑭同、陽13⑱同

〈ものさわがし〉「物騒がし」◎物さはかしき(定)18オ④ ★大成895⑪(新88④)同、河8⑱同、陽8⑱同

〈こころよわし〉「心弱し」○心よはく(定)24オ② ★大成900①(新73⑧)同、河11⑤同/陽11②(*異文「心よくも」)

〈よわし〉「弱し」○あしよはきくるま(定)2ウ⑦ ★大成886③(足よはき車、新89④)同、陽3⑫同、河3⑬(*異文「あしよはくるま」)

〈よわげなり〉「弱げなり」◎よはげなれと(定)二〇ウ② ★大成888⑬(新247)同、河6⑥同、陽6⑧同

〈おもひよわる〉「思ひ弱る」△おもひよはりはへし(定)一五オ④／★大成888⑦(新27⑭)異(わ)、河8⑤(*異文「おもひより侍りし」)、陽8⑤(*異文「思よりはへりし」)

V「ほ・お・を」

〈ホ↓オ/ヲ〉

〈いとほし〉○いとおしく(定)一オ③ ★大成888②(新88②)同、河3②同／陽3①(を) ◇○いとほしう(定)一オ④ ★大成888③(新

88⑪)同／河7⑪(お)、陽7⑪(を) いと越しうも(定)一八オ⑧／★大成888⑬(新89⑦)(お)、河9①(お)／陽9①(を)

△いとをし(定)30ウ⑨ 陽13⑮同／★大成888①(新78⑪)異(お)、河13⑮(お)

〈いとほしがる〉○いとおしかり(定)30オ⑩ ★大成888⑩(新28⑤)同／陽13⑪(を)、河13⑭(*異文「いとおしかり」)

〈ほほむ〉「微笑む」△ほおそみて(定)30オ⑥／★大成888⑩(新28⑨)異(ほ)、ほ、そみて河16①、ほ、そみて陽15⑮ △ほおそみて(定)

30ウ⑨／★大成888⑥(新28③)異(ほ)、ほ、そみて河15⑦、ほ、そみて陽16②

〈ホ↓ヲ〉

〈いきほひ〉◇△御いきほひ(定)22オ⑦ 河10⑪同／★大成888⑪(新72④)異(を)、陽10⑨(を) ◇△いきほひ(定)22オ⑤

河11⑥同／★大成888③(新73⑩)異(を)、陽11④(を)

〈いはほ〉「嚴」いは越(定)35ウ⑦／★大成888④(新28②)(ほ)、河16⑥(ほ)、陽16②(ほ)

〈きほひ〉「競ひ」*連用形△きおひ(定)2ウ⑥／★大成888②(新25④)異(を)、陽3⑪(を)／河3⑫(ほ)

〈ころほひ〉ころ越ひ(定)6オ⑦／★大成888⑤(新19⑧)(を)、陽4⑮(を)／河4⑮(ほ)

〈なほ〉「猶」猶(定)一五オ④ ★大成888⑬(新23⑥)同／河7⑮(を)、陽7⑮(を) 猶(定)33オ① ★大成888⑬(新28⑪)同

／河14⑮(を)、陽14⑮(を) な越(定)7ウ⑦／★大成888⑤(新23⑫)(を)、河5⑧(を)、陽5⑫(を) な越(定)16ウ

⑤ // 猶★大成 894 ⑫ (新 68 ④) / 河 8 ⑨ (を)、陽 8 ⑨ (を) な越 (定) 31 ウ ⑥ // 猶★大成 905 ⑫ (新 79 ⑩) / 河 14 ⑧ (を)、陽 14 ④ (を) な越 (定) 32 オ ⑤ // 猶★大成 906 ⑫ (新 79 ⑮) / 河 14 ⑪ (を)、陽 14 ⑧ (を) ◇なほも (定) 26 ウ ⑥ // ★大成 902 ① (新 75 ⑩) (猶)、河 12 ⑦ (を)、陽 12 ③ (を)

〈なほし〉「直衣か」な越し (定) 5 オ ⑦ // ★大成 887 ⑩ (新 88 ⑭) (を)、陽 4 ⑧ (を) / 河 4 ⑩ (ほ)

*新大系・脚注一七〇直衣か。一説に「きなを(着直)す也」(弄花抄)。

〈なほし〉「直衣」御な越し (定) 19 ウ ⑨ // ★大成 887 ① (新 70 ⑨) (を)、陽 9 ⑪ (を) / 河 9 ⑬ (ほ)

〈なほなほし〉「直直し」な越し / しき (定) 9 オ ① // ★大成 880 ① (新 88 ⑧) (を)、陽 5 ⑯ (を) / 河 5 ⑮ (ほ)

〈なほびと〉「直人」○なを | 人 (定) 17 オ ⑦ // ★大成 885 ④ (新 88 ⑩) 同、陽 8 ⑫ 同 / 河 8 ⑬ (ほ)

〈もよほす〉おもひもよ越され (定) 11 ウ ⑧ // ★大成 891 ⑫ (新 85 ⑥) (を)、陽 6 ⑯ (を) / 河 6 ⑮ (ほ)

〈よほし〉◇○よほし / く (定) 10 オ ⑤ // ★大成 888 ⑪ (新 84 ④) 同、河 6 ④ 同 / 陽 6 ⑦ (を)

〈ヲ↓ホ〉

〈かをり〉◎かほり (定) 28 オ ⑦ // ★大成 903 ② (新 76 ⑫) 同、河 12 ⑰ 同、陽 12 ⑬ 同

三

先に述べたように、前稿までの扱いは異なるけれども、字母「越」に注目するために、「越」はそのまま掲げることとした。そこで、以下の表Ⅰ・表Ⅲの数値には、「越」を使用した例を除いている(字母「江」を使用する1例―「きこ江」も除いた)。

定家本で、歴史的仮名遣いに一致する例(◇印)をみると、〈オ↓ヲ〉のグループでは用例数45、〈ヲ↓オ〉のグループでは用例数1である。また、四本の仮名遣いがみな同じ例(◎印)は、〈オ↓ヲ〉では用例数29、〈ヲ↓オ〉では用例数7である。

定家本と大島本との異同にとくに注目してみるために記号(○印)を付したが、この二本間で同じ仮名遣いの例は、〈オ↓ヲ〉では用例

数60 (◎印29 + ○印31)、(ヲ↓オ)では用例数25 (◎印7 + ○印18)であった。また、仮名遣いが異なる例 (△印)は、(オ↓ヲ)では用例数10、(ヲ↓オ)では用例数1である。この結果に加えて、定家本と河内本、定家本と陽明文庫本、さらに大島本と河内本の関係について、それぞれ同表記の用例数を表にまとめると、次のようになる。

【表1】 仮名遣いにおける同表記例 (オとヲ)

備考	同表記例		定家本と大島本	定家本と河内本	定家本と陽明文庫本	大島本と河内本
	(ヲ↓オ)	(オ↓ヲ)				
*漢字表記各2例	25	60				
*河内本異文2例	20	61				
*陽明文庫本異文2例	11	39				
	21	60				

四本の仮名遣いを比較すると、定家本と陽明文庫本の同表記 (仮名遣い) 例は他と比べて少ない。前稿②④でみた柏木卷・早蕨卷と同様に、行幸卷でも、別本の陽明文庫本が他本と著しく異なることが明らかである。また、柏木卷の(オ↓ヲ)では、定家本は大島本よりもむしろ河内本との一致度が高かったのであるが、早蕨卷とこの行幸卷では、定家本は大島本、河内本のいずれともほぼ同じ一致度である。

次に、前稿②④の柏木卷・早蕨卷での調査と同じく、便宜、大野晋の掲げた「藤原定家の仮名遣実例」などによって、定家の仮名遣いとの一一致度をみることにしよう。⁵⁾

仮名遣いが他本と著しく異なる別本の陽明文庫本を除き、他の三本において、定家の仮名遣いと一致する語例 (同表記例) をそれぞれ数えてみると、表IIのようになる (大野の資料にない語例は、仮名遣いの確認ができないものとして表の数値には入れない)。

【表Ⅱ】定家の仮名遣いと同表記例／異表記例（オとヲ）

備考	異表記例		同表記例		定家本	大島本（大成／新）	河内本
	（ヲ↓オ）	（オ↓ヲ）	（ヲ↓オ）	（オ↓ヲ）			
	1	4	23	61			
*漢字表記1例							
	2	5	22 (26)	59 (63)			
*漢字表記3例							
	4	4	19 (24)	61 (64)			
*河内本異文3例							

※定家本は、「越」使用の9例を除く数値。
大島本・河内本のカッコ内は、定家本での「越」の使用例を含む数値。

柏木巻・早蕨巻と同様、三者の定家の仮名遣いとの一一致度は高いといえよう。柏木巻では、とりわけ（オ↓ヲ）における定家本と河内本の二本は、定家の仮名遣いとの一一致度がかなり高く、早蕨巻では、一一致度はほぼ同じであった（ただし、早蕨巻の河内本には異表記例がなかった）。行幸巻でも一一致度はほぼ同じである。ただ、定家本での一一致度が高いのは当然のことといえるのだが、総じて河内本の定家の仮名遣いとの一一致度が高いことが注目される。

さて、ここで、字母「越」をそのまま掲げたことについて述べておきたい。定家本四帖（柏木・花散里・早蕨・行幸）における字母「越」の使用状況を比較してみると、実は行幸巻での使用が断然多いのである。巻々で本文の分量が異なるので、『源氏物語大成』校異篇の頁数でそれぞれの分量を示し、便宜、定家本については渋谷栄一翻字の本文も参考にして数値を示せば、次のとおりである。

11帖・花散里	大成一・387頁～390頁（計4頁）	「越」Ⅱ1	「助詞0	自立語1
29帖・行幸	大成二・885頁～911頁（計26頁強）	「越」Ⅱ70	「助詞50	自立語20
36帖・柏木	大成二・1227頁～1284頁（計38頁）	「越」Ⅱ29	「助詞11	自立語18
48帖・早蕨	大成三・1677頁～1684頁（計17頁強）	「越」Ⅱ3	「助詞1（和歌）	自立語2

花散里巻のように極端に短い巻を除き、他の三帖をみると、早蕨巻は分量が少ないとはいえず、いかにも使用例が少ない。そして、最も本文分量の多い柏木巻に比べて、行幸巻での使用例の多さが際立っているのである。とりわけ助詞50は極めて多い。今、参考までに、目安として、『源氏物語大成』校異篇の本文による「助詞の各巻別度数と総度数に対する千分率（高頻度順）」をみると、行幸巻の助詞「を」は度数137である。

右に示した行幸巻での字母「越」の使用例（オ↓ヲ／ヲ↓オ）を子細にみると、次のようになる。⁽⁷⁾

〈おく〉「置く」（て越）、「きたるやうに」（定）36ウ⑨ ↓踊り字、「を」（助詞）に相当。

〈おぼしたつ〉（な越）、「ほしたて」（定）7ウ⑦ ↓踊り字、上接語は「なほ」（副詞）。定家は仮名表記では「なを」。

〈くちをし〉くち越しき（定）13ウ⑧ ↓「お」（定家の仮名遣い）に相当。

くち越しけれと（定）25ウ⑤ ↓「お」（定家の仮名遣い）に相当。

〈をり〉「折」越り（定）29ウ② ↓「お」（定家の仮名遣い）に相当。

〈おくりもの〉「贈り物」御越くり物（定）33ウ① ↓「を」（定家の仮名遣い）に相当。

〈たちおくる〉「立ち後（遅）る」たち越くれ（定）11ウ⑤ ↓「を」（定家の仮名遣い）に相当。

〈をしほのやま〉「小塩の山」越しほの山（定）5ウ⑧ ↓「を」（定家の仮名遣い）に相当。 *和歌中の例

〈をしほやま〉「小塩山」越しほやま（定）6オ⑤ ↓「を」（定家の仮名遣い）に相当。 *和歌中の例

前稿②④でふれたように、字母「越」の扱いは難しい。大野晋によれば、「越」（原文は、草体）の仮名は一般に「を」の仮名と同じものとみなされているが、定家の仮名遣いでは、「越」の仮名は大体「於」（原文は、草体）と同類として使われた、ということであった。⁽⁸⁾

柏木巻の定家筆部にみえる1例（越ほけなき心 6丁ウ、★大成「越」①）のみの「越」の使用については、このような使い方であったとみたのだが、そうであれば柏木巻の定家筆部においては、すべて定家の仮名遣いに一致することになるのであった。⁽⁹⁾

また、小松英雄によれば、「越」の仮名は、「を／お」の仮名のいずれに対しても補助字体として用いられている。⁽¹⁰⁾ とのことであったが、柏木巻の非定家筆部にみえる、定家の仮名遣いにおいて「お」「を」のそれぞれに相当する「越」の使用例は、果たしてこのようにみてもよいものであろうか。というのも、非定家筆部には、明らかに定家の仮名遣いと異なる表記がみられたからである。

行幸巻でも、右に掲げたように、定家の仮名遣いにおいて「お」を「を」のそれぞれに相当する「越」の使用例がみえる。このうち、「をり」「折」についてみると、行幸巻での用例は全7例、関連語「をりしも」「折しも」「をりをり」「折折」「をる」「折る」のいずれも定家本の表記は「お」であって、ただ1例のみ「越り」である。影印本文を確認すると、「越りは於もたまへ（折は思たまへ）」と後に「お（於）」があるが、隣接する行に「お」「を」があるわけではない。つまり、小松英雄のいう仮名「越」の字体の機能は、定家自らの筆による範囲にとどまるものといえるのではないだろうか。定家のいわゆる自筆本・臨模本などの資料をもとに、「越」の用法の変化、書写年時の違いを考える説もある⁽¹¹⁾ので、なおあらためて考察することにした。

四

オとヲ以外について、歴史的仮名遣いに一致する例（◇印）をみると、定家本では、延べ59例である。また、四本の仮名遣いがみな同じ例（◎印）は、26例である。同表記の用例数を表にまとめると、次のようになる。

【表Ⅲ】 仮名遣いにおける同表記例（オとヲ以外）

同表記例	79	78	41
	定家本と大島本	定家本と河内本	定家本と陽明文庫本

四本の仮名遣いを比較すると、「オとヲ」の場合と同様に、オとヲ以外でも、定家本と陽明文庫本の同表記（仮名遣い）例は他と比べてかなり少ない。それにもかかわらず、前稿①③でみた固定的な表記のうち、「まいる」「ことほり」は、前稿④での早蕨巻と同様に、行幸巻でも陽明文庫本を含めて四本すべての用例で、非歴史的仮名遣いで同一の表記である（行幸巻「まいる」11例、ことほり1例。ただし、河内本の異文1例を除く）。また、「ゆへ」（1例）「かほり」（1例）も四本みな同一の表記である。ただ、「つみに」（1例）は、陽明文庫本のみ「ついに」（影印8オ⑨）で異表記となる。さらに、「さほく」「騒ぐ」（1例）とその派生語「さほかす」（1例）「さほかし」（2例）「も

のさほかし」(1例)も四本みな同じであり、「こころよほし」「心弱し」(1例)「よほし」「弱し」(1例)「よほけなり」「弱げなり」(1例)「おもひよほる」「思ひ弱る」(1例)の語基を同じくする4語もほとんど同一の表記である(異文を除き、例外は大島本の「おもひよほる」のみ)。一方、他三本が「うるほし」「ものうるほし」であるのに、定家本のみ「うるわし」(*ハ行転呼)「ものうるほし」と表記にユレのみられる語もある。

ところで、早蕨巻・行幸巻の影印本公刊以前であったためにやむをえず一部の資料からの考察とならざるをえなかったのであるが、渋谷栄一⁽¹²⁾は、行幸巻の「いとおし」1例を挙げ、「いとほし」は0、よって混在はナシとした。しかしながら、行幸巻全体では表記が多様である。すなわち、全4例の表記は「いとおし」(1例)「いとほし」(1例)「いと越し」(1例)「いとをし」(1例)であった。ちなみに河内本は4例とも「いとおし」、大島本は「おし3例」「ほし1例」、陽明文庫本はすべて「いとをし」である。

前稿③でみた「猶(なほ)」について、柏木・早蕨・行幸の三帖での表記をまとめると、

柏木巻Ⅱ「猶」8例(すべてA定家筆部の例)、「なを」11例(すべてB非定家筆部の例)、「な越」ナシ

早蕨巻Ⅱ「猶」3例、「なを」1例、「な越」ナシ

行幸巻Ⅱ「猶」2例、「な越」4例、「なほ」1例

となる。遠藤邦基⁽¹³⁾のいうように、先ず漢字表記であることが、柏木巻Aでは実践され、早蕨巻でも漢字表記が多く、仮名では「なを」である。ところが、行幸巻では「な越」が多いばかりではなく、「なほ」という異例の表記がある。他本では、大島本は漢字表記6、「なを」1、河内本・陽明文庫本はすべて「なを」である。

かつて池田亀鑑は、定家本の早蕨巻について、「定家自筆と認められる」とし、行幸巻については、「定家が家中の小女等をして書かしたものの一類であらうか」と述べた。⁽¹⁴⁾

現在では、早蕨巻・行幸巻どちらも定家とは別筆であって、定家監督書写本とみられている。たとえば、前稿②でもふれたように、渋谷栄一⁽¹⁵⁾は、先行研究をふまえて、藤原定家筆「源氏物語」(四半本系原本4帖とみる)の筆跡について、A「定家筆」、B定家風の「非定家筆」、C「別筆」というように三つに分類している。そして、早蕨巻の筆跡について、写真資料等からBで定家風の「非定家筆」と考えている。行幸巻も、

「柏木」別筆や「花散里」「早蕨」ともまた違った書風である。となると、第三の「別筆」といえよう。

とみている。そして本文研究において、A「定家筆」を、B定家風の「非定家筆」とC「別筆」とは区別して再検討していくべきではないか、と考える。そのために、これらの間にどれほどの相違が存在するのかを明らかにしていくことが肝要だとみている。

また、岸本理恵は、定家の私家集書写を支えた側近のなかに、「柏木」別筆、「花散里」「早蕨」と同筆としてよい側近の筆を指摘している（C筆と呼ぶ）。渋谷と同様に一部の資料からではあるが、「行幸」は、「定家筆でもC筆でもない別の側近筆である」としている。

確かに、早蕨巻・行幸巻をそれぞれ影印で見ると、明らかに両者は別筆であると思われる。たとえば、仮名の「の」「乃（の）」などは一見して筆跡の相違をみてとれよう。

さて、ここで問題となるのは、両巻の質的な相違である。池田亀鑑の述べたことは、定家筆からの両巻の距離の違いとは考えられないだろうか。仮名遣いのうえからではあるが、早蕨巻のほうが行幸巻よりも定家筆に近いといえるのではないか。

それは、「越」の使用（とりわけ助詞「を」に相当する「越」）、「なほ（猶）」の表記、定家の仮名遣いと異なる表記例の多少などにみられたといえよう。前稿④であれたように、早蕨巻には、「を↓お（於とろき）」（驚く）という定家の仮名遣いへの明らかな訂正もあつた。⁽¹⁷⁾定家監督のもとに、どこまで定家の仮名遣いが及んだのか、写本の位置付けとしてもなお考察を加えていきたい。

これまで、直接小論の対象とした柏木・早蕨・行幸の三帖についてふりかえると、

○定家本の柏木・早蕨・行幸の三帖は、いずれも定家の仮名遣い（オ／ヲ）と同表記が多い（一致度が高い）。

少数ではあるが、三帖とも異表記もみられる。

○仮名遣いのうえからではあるが、早蕨巻のほうが行幸巻よりも定家筆に近いと思われる（とりわけ、指摘されているような、定家自身における「越」の用法とすることがあるとすれば、行幸巻でのその使用は甚だ安易といえるであろう）。

○尾州家河内本も定家の仮名遣い（オ／ヲ）と同表記が多い。

このことは、仮名遣いという表記面ではあるが、定家本との親近性が感じられよう。あるいは書本（親本）における定家本との親近性が想定されるのではないかとも思われる。

○陽明文庫本の柏木・早蕨・行幸の三帖は、いずれも定家の仮名遣い（オ／ヲ）で他本と著しく異なる。「オとヲ以外」では、柏木巻

を除く早蕨・行幸巻ではやはり他本と著しく異なる。にもかかわらず、「オとヲ以外」では、四本すべての用例で、非歴史的仮名遣いで同一の固定的な表記の語がみられる。ということになるが、さらに追究していきたい。

加えて今後、「む」「ん」などの表記についても詳しくみていく必要があるかと思われる。また、大島本の本文の性格と仮名遣いとの関係もさらにみていくことにしたい。

〔注〕

(1) 早蕨・行幸巻については、藤本孝一編『定家本源氏物語 行幸・早蕨』(2018年)を参照した。

(2) 本稿では、筆者が先に執筆した前稿について、次のように番号を付した。

前稿①は、「源氏物語玉鬘巻古写本の表記―歴史的仮名遣いと定家仮名遣い―」(國學院大學栃木短期大学紀要 第48号、2014年3月)。前稿②は、「源氏物語柏木巻古写本の仮名遣い(上)―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(國學院大學栃木短期大学紀要 第51号、2017年3月)。前稿③は、「源氏物語柏木巻古写本の仮名遣い(下)―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(國學院大學栃木短期大学紀要 第52号、2018年3月)。前稿④は、「源氏物語早蕨巻古写本の仮名遣い―定家本と大島本・河内本・陽明文庫本―」(國學院大學栃木短期大学紀要 第53号、2019年3月)。

(3) ①は、便宜「源氏物語の世界」(<http://www.sanetor.jp/~schibuya>)の翻刻資料(定家本原本)の渋谷栄一翻字・行幸巻の本文によるが、注(1)の影印本文も参照する。②は、大島本を底本とする、『源氏物語大成』巻二・校異篇ならびに新日本古典文学大系(岩波書店)の源氏物語(以下、新大系本という)の本文による。新大系本は、その凡例によれば、「底本の本文を尊重し、手を加えないことを原則」としている。また、「仮名遣いは、底本のままとし、本文が歴史的仮名遣いに一致しない場合には、()でそれを傍記する。」とある。なお、法蘭西古代学協会・古代学研究所編『大島本源氏物語』第五卷(1996年)の影印本文を適宜参照する。

③の尾州家河内本源氏物語の本文については、秋山慶・池田利夫編『尾州家河内本源氏物語』第三卷(1977年)行幸巻の翻刻により、『尾州家河内本源氏物語』第五卷(2012年)の影印本文を適宜参照する。

④の陽明文庫源氏物語の本文は、陽明叢書国書篇第十六輯『源氏物語八』(1980年)行幸巻の翻刻により、また、陽明叢書国書篇第十六輯『源氏物語八』(1980年)の影印本文を適宜参照する。

(4) 前稿③参照。

(5) 大野晋「仮名遣の起源についての研究」(『仮名遣と上代語』所収、1982年)の本文および「仮名遣の起源についての研究」資料の「一 藤原定

家の仮名遣実例」。同「仮名遣の起源について」(『国語と国文学』1950年12月号) 参照。

- (6) 『源氏物語用語集 総索引 付属語篇 別冊』(1996年)。
- (7) 「おくりもの」の仮名遣いについて確認しておく。冷泉家時雨亭叢書『後撰和歌集 天福二年本』(2004年) 影印188丁下に「御をくりもの」とある。
- (8) 注(5)の『仮名遣と上代語』。
- (9) 渋谷栄一「藤原定家筆『源氏物語』(四半本系原本4帖)の本文資料の再検討―「柏木」巻の定家筆と非定家筆との相違を中心に―」(豊島秀範編『源氏物語本文の研究』2011年) 参照。
- (10) 小松英雄『日本語書記史原論』(1998年)の第三章 藤原定家の文字遣。また、同『いろはうた 日本語史へのいざない』(1979年) 参照。
- (11) 小笠原一「定家自筆本のかなの用法―『越』の場合―」(『学芸国語国文学』第12号、1976年1月) 参照。なお、副題にある「越」は草体。
- (12) 注(9)に同じ。
- (13) 遠藤邦基「解釈に影響した転呼音表記―『なほ(猶)』の場合―」(『国語表記史と解釈音韻論』2010年、第二章 古典解釈と仮名遣)。
- (14) 『源氏物語大成』巻七・研究資料篇(1956年)、原文旧字。
- (15) 注(9)に同じ。
- (16) 岸本理恵「定家監督書写の源氏物語」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第15号(2016年3月)。同「藤原定家の監督書写と和歌研究」『国語国文』第85巻第10号(2016年10月)。
- (17) 注(1) 前掲書の解題参照。
- (18) 拙稿「日本語史における大島本源氏物語について」(『野州国文学』第87号、2014年3月) 参照。

〈付記〉

中古文学会の2019年度秋季大会(10月)での研究発表資料集の一部を本学の林田孝和副学長より見せていただく機会を得た。資料集にある藤本孝一氏の「新出、定家本『若紫』の紹介―音読から読書へ―」によれば、物語文中の和歌の書き方の過程について想定されていて、定家本での書写段階において、その第三段階のうち、『早蕨』『柏木』と、『若紫』『花散里』『行幸』とは別グループに分類された(影印本でも、和歌の書き方において『早蕨』と『行幸』の相違が確認される)。そして、「この段階は、時期の相違した写本と見るか、書写する小女等の個性の範囲内に収まるか、である」と述べているが、このことが仮名遣いの相違にもかかわるかと思われる。